

いま育成すべき力は何かをともに考えるⅡ

— 高等学校・大学の役割 —

～次期高等学校学習指導要領と高大接続の本質～

日時 **2018年**
12/8(土)
10:00～17:30
(受付9:30～)

会場 **キャンパスプラザ京都**

参加費 ▶ 京都府内の高等学校・大学関係者
: 1,000円
▶ 上記以外の方(京都府内企業関係者含む)
: 2,000円

※「レジュメ・資料集」「報告集」を含みます。

昨年、第15回高大連携教育フォーラムを開催するにあたり、次の趣旨を述べた。

“現在、「高大接続改革」の具体化に向けた検討が進められている。しかし、その注目は、依然として、大学入学者選抜改革、特に「大学入学共通テスト」に集まっている。「高大接続改革」の本来の目的は、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜を一体的に改革することにより、高校生・大学生に必要となる資質・能力を身に付けさせることであって、大学入学者選抜改革は「教育改革」を実現するための改革の一つであるということをお忘れはならない。高等学校・大学が大学入学者選抜も含めた教育改革を進めていくにあたっては、双方が「若者にどういった力を身に付けさせるべきなのか」ということを基盤として持つ必要がある。”

いまなお、この認識が変わりはない。したがって、メインテーマはそのままとした。

今回は、2018年3月に次期高等学校学習指導要領が告示されたことや、2019年度から「高校生のための学びの基礎診断」が導入されることを踏まえて、高大接続のあり方を探っていきたいと考えている。

第1部

10:00～15:10 (昼休み11:40～12:40)

定員260名

総司会 長谷川 豊氏 (大学コンソーシアム京都高大連携推進室員 / 京都府立大学公共政策学部准教授)
開会挨拶 木村 良己氏 (京都高大連携研究協議会運営委員長 / 同志社中学校・高等学校校長)
趣旨説明 荒瀬 克己氏 (大学コンソーシアム京都高大連携推進室長 / 大谷大学文学部教授)

基調講演

10:10～11:40

新学習指導要領は何を目指すのか
～習得・活用・探究における
「主体的・対話的で深い学び」～

講師 市川 伸一氏
(東京大学大学院教育学研究科教授)

事例報告

12:40～13:30

「高校生のための学びの基礎診断」実施に
向けて取り組んできたこと
～高等学校教育の質保証を目指す観点から～

講師 三浦 隆志氏
(岡山県立林野高等学校校長)

パネル・フロア ディスカッション

13:40～15:10

「次期高等学校学習指導要領と高大接続の本質」という
観点から、いま育成すべき力とは何かをともに考える。

パネラー 市川 伸一氏・三浦 隆志氏
大西 俊弘氏 (龍谷大学理工学部准教授)
コーディネーター 筒井 洋一氏 (元京都精華大学人文学部教授)

第2部

分科会 15:30～17:30

※第2部の詳細は、裏面をご覧ください

第1分科会【表現技法】／第2分科会【数学】／第3分科会【英語】
第4分科会【理科】／第5分科会【国語】／第6分科会【地歴・公民】 (各定員30名)
特別分科会①【アドミッション専門人材開発】 (定員40名)／特別分科会②【高大社連携キャリア教育】 (定員40名)

情報交換会

17:45～18:45

キャンパスプラザ京都2F ホールにて開催いたします。お時間の許す限りご参加ください。参加費 2,000円／定員60名

